



救急車の適正利用を 助かる命を 救うために

救急車は、災害や急病などで緊急に病院へ搬送する手段として、重要な共有財産です。一刻を争う救急出動要請に即座に対応するため、あらためて、救急車の適正利用について考えてみませんか。お問い合わせは消防本部警防課 電話459-7804へ

9月3日(日)～9日(土)は
救急医療週間



救急出動件数と搬送人数は 過去最多を更新しました

消防本部では、平成29年4月1日から常時6台の救急車が出動できる体制をとっています。4年の救急出動件数は11,509件、搬送人員は8,538人となっており、ともに過去最多を記録しました(表1)。これは、1日あたり約32件の救急出動があり、平成30年と比べると約1.2倍に増加しています。

救急車は無料だから、夜間・休日の診療時間外だったからなどの理由で救急車を要請するケースも多く見受けられ、全国的な問題となっています。これにより、最寄りの救急車が出払ってしまい、遠くの消防署から出動することになり、現場への到着が遅れ、助かる命が助からなくなる恐れがあります。

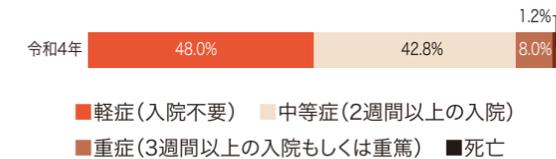
救急搬送の約半数が軽症者です

4年に搬送された人の傷病程度は、軽症が最も多く、全体の48%を占めています(表2)。軽症者の利用などで出動件数が増加してお

■表1 出動件数・搬送人員・軽症者の推移



■表2 救急要請をした人の状態



り、通報から現場到着までの所要時間の平均は10分56秒と年々遅くなっています(表3)。

緊急性が高いと判断したときは、迷わず救急要請が必要ですが、こうした現状を踏まえると、適正利用への皆さん一人ひとりの意識と協力が、不可欠となってきます。

判断に迷ったら電話相談や 救急受診アプリを活用しましょう

家族や自分が急な病気やけがをしたときに、救急車を呼ぶか迷ったら、判断を手助してくれる、救急安心電話相談やこども急病電話相談、消防庁が提供しているアプリ「Q助」を活用しましょう。

■救急安心電話相談・こども急病電話相談

すぐに医療機関を受診した方がよいか、救急車を呼ぶべきか迷ったときに、看護師や医師・小児科医のアドバイスを受けられます。

- ・救急安心電話相談 ▶ 相談時間 平日・土曜日…午後6時～翌日午前6時、日曜日・祝日・振替休日…午前9時～翌日午前6時 ▶ 連絡先 局番なしの☎#7009(ダイヤル回線、IP電話、光電話からは☎03-6810-1636)
- ・こども急病電話相談 ▶ 相談時間 毎日午後7時～翌日午前6時 ▶ 連絡先 局番なしの☎#8000(ダイヤル回線、IP電話、光電話からは☎043-242-9939)

■全国版救急受診アプリ(Q助)

該当する症状などを画面上で選択していくと、緊急度に応じた必要な対応が表示されま

す。その後、医療機関や受診手段の検索を行うことができます。緊急時に備えて、下のコードよりダウンロードしておきましょう。



▲iPhone版
アプリはこちら



▲Android版
アプリはこちら

こんな症状が出たら ためらわずに救急車の要請を

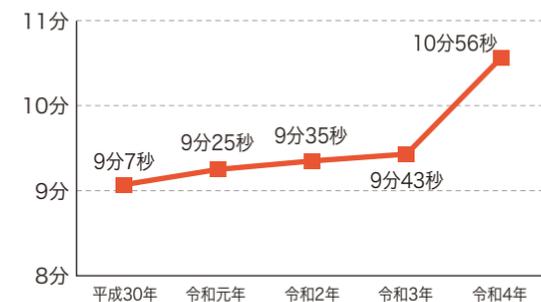
次の症状がある場合は、緊急度・重要度も非常に高い状態です。ためらわずに救急車を要請してください。厚生労働省のホームページでは、年代別の救急車を要請したほうがいい場合の症状を紹介していますので、下のコードからご覧ください。

- ・呼吸停止、心臓停止で人工呼吸または心肺蘇生が必要な人
- ・呼吸困難の人
- ・骨折をして動けない人
- ・広範囲にわたって火傷をした人
- ・けいれんが続いている人
- ・大出血などがあり、ショック症状がある人
- ・吐血や下血がある人
- ・頭を打つなどの理由で意識状態に異常がある人
- ・激しい頭痛、腹痛がある人
- ・手や足の一部または全部が麻痺している人



▲こんな時は
迷わず119へ

■表3 通報から現場到着までの所要時間



正しい応急手当を動画で学ぼう!

大切な命を救うために、心肺蘇生に関する動画を作成しています。お手持ちのスマートフォンなどで見られるので、いざという時に備えておきましょう。動画は右のコードから見られます。



▲動画はこちら

広告

広告